

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170800177		
法人名	有限会社なないろファミリー		
事業所名	グループホーム虹の里伊自良		
所在地	岐阜県山県市松尾344-5		
自己評価作成日	平成22年8月11日	評価結果市町村受理日	平成22年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170800177&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護師1名、准看護師3名を配置し、医療機関とも連携しながら常に利用者の健康状態に留意しつつ、快適な日常生活に向け医療、介護の両面から支援しています。30代から70代までと幅の広い職員を擬似家族のように配置し、利用者に安心感を得られるように配慮しています。昔懐かしい雰囲気のある場所で、利用者と家族との橋渡しをしながら癒しのケアを目指します。自家菜園で栽培した野菜を収穫しながら近所の方と会話したり、畑を近所の方に助けてもらったり、愛猫と一緒に散歩したりと、そんなのんびりした暖かなホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺には、畑や神社があり、利用者の散歩コースになっている。散歩時に近隣住民と声をかけあい、市内で古参のホームとして、地域に溶け込んでいる。平屋造りのホームは、居室への廊下に長い手すりが設けられ、車椅子でも自力で口腔ケアができるよう、洗面台の高さにも配慮している。重度化と終末期に関しては、ホームで行える限界までと決めているが、管理者の考えで看護師を多く配置し、家族の安心を得ている。また、職員の離職者が少なく、利用者の精神的な安定につながり、認知症レベルや身体機能・排泄機能面で改善が見られる。管理者の熱意を汲み取った職員が、利用者に日々寄り添い、心温まるケアを継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ご本人、ご家族のニーズを第一とし、個性を尊重した自立支援」を理念とし、2～3カ月に一回のミーティングにて、この理念に基づいた介護が提供できるよう職員全員で確認している。	地域と自然に交流を深めながら、「利用者の個性を尊重した自立支援」を理念としている。理念は、定期的な職員会議で確認し、利用者本位の、自立的なケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	演芸会やイベントでは、地域の方々やご家族に呼びかけ、多数の皆さまに参加していただいている。また、特別な催しだけでなく、日常の散歩のときなどに言葉を交わせる関係を築いている。	散歩時には、周辺の人々と気楽に挨拶を交わしている。また、地域に常時ホームを開放し、イベントなどで交流している。住民の協力により、春祭りに子供みこしの練りや、地藏堂の提灯祭りに歩いて参加するなど、地域との交流は自然に行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回開催される地域ケア研究会に職員が参加し、グループワーク等を通してホームでの経験等の話をできる機会を得ている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回近況報告を提出し、利用状況や活動内容を報告している。改善点については、できる限り早く対応するように努力している。	行政・民生委員・自治会長・住民代表・家族代表が参加し、概ね3ヶ月に1回、開催されている。認知症の説明や、参加者から夜間の避難訓練の要望や意見が出ている。ホームからの経過報告に留まらず、幅広い立場の人と意見交換し、運営に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの緊急対応や困難事例の要請については、何度も話し合いを重ね、協力体制を整えた上で、受け入れるようにしている。当ホームでの困難事例を相談することもある。	地域包括支援センターと協働して、困難事例にも対処し、相談ごとや対策などが話し合える関係ができています。	市とは、何でも話し合える関係ができていますので、さらには、運営上の課題や現場の実情を伝えて、協力関係を築くことが望ましい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する研修を受けた職員が、ミーティング時に内容を伝達し全員が理解できるようにしている。しかし、身体保護を優先せざるを得ない場合もあり、拘束ゼロとは言えない。	職員は、外部研修や職員会議等で、身体拘束の意味を理解しており、拘束のないケアを目指している。しかし、身体機能の低下により、やむを得ない場合は、家族の同意を得て行う場合がある。	拘束は、重度になった利用者には、安全面を優先しがちである。拘束が、常態化することのないように、常に、他に方法はないか、意識的な取り組みに期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束、虐待に関する研修を職員が受け、全員に伝達している。特に、言葉による虐待については、無意識に行われている可能性もあり、慎重を要する旨、何度も話し合っている。			

岐阜県 グループホーム虹の里伊自良

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	財産管理等の相談を受けた場合は、成年後見制度の紹介、社会福祉協議会等への橋渡し等を行っているが、十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、制度改定に伴う加算等については、文書または口頭で、家族に十分説明し、理解を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での連絡等、機会があれば、ご利用者の報告を行い、要望等を聞くようにしている。	家族の訪問が多く、その際、希望や要望・意見等を聞いている。家族からは、認知度・理解力に合わせ、できることや、日々散歩を行ってほしいとの意見がある。意見要望は、全職員で話し合い、日々のケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に限らず、個別の意見にも耳を傾けている。提案を形にできるよう職員にすべてを任せることも多い。	管理者は、会議等で職員の自由な意見を聞いている。各職員は、レクリエーション・キッチン・感染・緊急・環境整備など、役割を担当し、提案や意見を出しやすい体制である。ホーム行事の企画・段取り等は、職員の意見とアイデアで運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自主性を重んじつつ、職員各人の状況を把握して、待遇改善に努めている。また、ミーティングを通じて運営に関する意見聴取に努め、改善について協議している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会には、できる限り職員が参加できるよう配慮している。また、介護福祉士を目指す職員には、資格が取得できるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山県市介護事業者連絡協議会、山県市内のグループホーム連絡会、岐阜県グループホーム協議会等に参加するとともに、医療依存度の高いご利用者の受け入れに際しては、病院や他の介護施設に見学を依頼するなど交流を図っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後を通じて、ご本人とできるだけ会話を 持ち傾聴することにより、ニーズを拾い上 げるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている	ご家族の状況(家族関係や仕事、ご家族の 身体状況等)を傾聴し、できる範囲でニーズ に応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が 「その時」まず必要としている支援を見極め、 他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期においては、特に慎重にご本人の状況の把 握に努め、紹介者(ケアマネ等)やご家族との連 絡を密にして、その後の対応を協議している。ま た、他のサービスが適切と判断される場合には、 地域包括支援センター等の協力を仰ぐようにして いる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築い ている	当ホームは、要介護1～5と幅広いため、個 別ケアを中心としている。自立度に応じた活 動やケアを通じて職員との信頼関係を築い ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共 に本人を支えていく関係を築いている	入所時には、ご本人、ご家族ともに混乱して ことも多く、家族関係に亀裂が生じている場 合もある。入所後の様子を伝えていく中で、 関係を修復できるようにと努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に努 めている	当ホームを、ご家族とご利用者とのパイプ役 と位置付け、ご家族や友人、近所付き合いか ら孤立することのないよう支援している。	同じ町内の人や古い友人が来訪し、地元の美 容院からは定期訪問があるなど、利用者と地 域の懐かしい関係が途切れないよう支援して いる。来訪者には、ホームからも、声かけや感 謝の気持ちを伝えるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるような支援に努めている	普段の生活を通じて、利用者同士の関係を 把握し、レクリエーションやイベントの中で触 れ合ったり、時にはトラブル回避のため距離 を置いたりして、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移動に際して、申し送りを行い、また介護情報提供書を作成し、本人が新たな環境にいち早く順応できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族より思いや意向を聞き、ミーティング等で協議して、できる限り対応している。例えば、喫茶店に行きたい、たばこを吸いたい等の要望についても対応している。	利用者の思いや意向を、日常の会話から聞き出している。言語による意思表示が困難な人には、表情で読み取るなど、小さな仕草に気配し、把握している。利用者の喫煙には、場所や本数を定め、体調や様子を見守り、本人の思いを優先に支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介者(主にケアマネ)からの情報や、入所時や入所後の会話の中から、利用者各人の歴史等の背景の把握に努め、フェイスシートの充実等を通じて、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートを活用するとともに、個人記録等に残して、職員全員が利用者各人の状況を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向やそれぞれの意見、またミーティングで取り上げた内容を、ケアプランに取り入れるなど工夫している。	3ヶ月に1回のモニタリングを基本としており、医師からの指示や家族の要望も取り入れた介護計画が、全職員の意見交換を基に作成されている。急変時・必要時には柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録等に残して、職員全員が利用者各人の状況を把握できるようにしているとともに、ケアプランの作成に活かすよう努めている。また、ケアプランに沿った個人記録の残し方を意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連携医療機関以外で、利用者が希望する医療機関への受診等は、基本的に家族対応だが、状況の変化や、要望に応じて、柔軟に対応している。また、一対一での外出(買い物、喫茶店等)も行っている。		

岐阜県 グループホーム虹の里伊自良

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加するなどして、地域の人や場の力の働きかけを借り、安全で刺激のある生活が行うことができるよう支援している。また、地域の美容師さんの訪問してもらうなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう、細心の注意を払っている。ホームの連携医が認知症サポート医であり、協力体制が整っている。	ホームの協力医から、月2回の往診を受けている。受診は、家族同行が基本であるが、家族ができない場合は、ホームの看護師が同行し、医師に報告・相談を行い、適切な医療が受けられる体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名及び非常勤の准看護師3名を配置し、日々異常の早期発見や必要なケアの提供に努めている。また、看護職も一部介護にたずさわっており、異常の早期発見にも役立っている。介護職がすぐに看護師に相談できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際して、介護情報提供書を提供するとともに、必要に応じて主治医、担当看護師、ケースワーカー等病院関係者と協議し、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、おおよその方針を説明し了解を得ている。段階ごとに、主治医と相談しながら慎重に進めている。初めて看取りを行ったが、主治医と家族を交えて話し合ったり、職員間でのミーティングを行ったりと慎重に対応した。	加齢などに伴い、重度化については避けては通れない問題と認識している。終末期については、家族の同意を得て、医療行為が発生した場合は、他施設へ移ってもらっている。	利用者の高齢化・重度化に伴い、利用者・家族の意向や医療との連携等、方針を共有するために、さらに、繰り返し話し合う体制づくりを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時訓練を行っているが、さらに対応力を高めていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に、地域自治会代表や近隣住民代表に参加してもらっており、防災訓練等を通じて、災害時の協力体制について協議を行っている。また、災害に備えて、一定の食料、オムツ等を備蓄している。	消防署の協力のもとで、年2回、防災訓練を行っている。夜間を想定した訓練を近々行う予定である。自治会との緊急連絡網を作成し、災害時に地域との協力体制については、地元の理解を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時の声かけ等、小さな声で行うようミーティングで注意を促している。	利用者個々の性格や個性を尊重し、誇りを損ねないように、言葉かけに配慮している。また、個人情報の取り扱い、守秘などについても話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物等、何種類かの中から好きな物を選ぶようにしたり、合唱の選曲等、日常の場面で自己決定出来るよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室の掃除機かけや、廊下のモップかけ等その人らしい日常のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容師を専属に依頼し、本人の好みに応じた対応を行っている。時には、マニキュアを楽しんだりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや配膳、テーブル拭き等、能力に応じた食事に向かう楽しみの支援を行っている。おやつやの時間や誕生会等を利用し、一緒におしゃべりしながら食べる機会を作っている。又、当ホーム農園の野菜収穫を行い、新鮮な野菜を調理し、食卓に並べ皆で味わう。	ホーム農園で収穫した野菜の下準備や、配膳・片付けなど、得意なことを職員と一緒に、楽しみながら行っている。食事の内容は、ペーストや刻みなど、普通食と同じ物を食べやすい形状にして、味わえるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や、水分摂取量、体重の推移等を記録に残し把握している。また、各人の状態に応じて、きざみ、ペースト等の食事を提供している。また、野菜の種類を多くして、彩りに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各人の能力に応じて、毎食後口腔ケア、義歯洗浄等行っている。		

岐阜県 グループホーム虹の里伊自良

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り布パンツの使用してもらっているが、紙パンツや紙おむつをしている方にも、できる限りトイレで排泄できるように声かけし、歩行訓練を兼ねトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表をつけ、個々の排泄パターンを把握し、その人その人に合ったおむつや下着を選択している。職員の、さりげない声かけによるトイレ誘導によって、自立した排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動等を行っているが、重度の方、薬の副作用や消化器疾患で便秘の方も多く、下剤や浣腸に頼らざるを得ないこともある。また、テーブルにポット置き、好きな時間に飲むことができるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には決まった日時となっているが、本人の希望があれば、この限りではない。	週3回の入浴が基本であるが、汗をかいた日や希望に合わせ、夜間入浴やシャワー浴、部分浴、清拭など柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な空調とし、夜間でも自由に水分摂取ができるようにするなど配慮している。夜間はスタッフが空調に気を配り、タイマー等で調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的には看護師が管理しており、症状の変化、副作用の出現については主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、体操、ぬりえ、折り紙、カルタ、回想法、散歩、誕生会など実施している。その他にも、節分、苺狩り、梅ちぎり、花火見物、紅葉狩りなど四季折々の行事行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、日光浴、ドライブ、喫茶店など、出来る限りの外出支援をしてきたが、重度化に伴い困難になってきている。1対1の外出も行っている。	ホームの近くには、神社や寺・畑・田んぼがあり、日々の散歩コースとなっている。個々の希望で、散歩や買い物、喫茶店などへ職員が同行し、出かけている。車椅子の利用者には、屋外に出て、景色を眺めたり、外気に触れるように支援している。	

岐阜県 グループホーム虹の里伊自良

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意の上で、ホーム側で管理しているおこづかいの他に、各人の希望に合わせ個人管理のお金を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自立度の高い方の中には、携帯電話を持ち込んで自由にかけられる方もいる。また、家族に連絡したいとの希望には、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏季には、西日の入る西側居室はよしずを利用して、室温調整を図っている。また、ホールに花や植物を置いて、心安らぐ工夫をしている。	利用者は、日中はリビングで歌を歌ったり、作品を作ったりして過ごしている。ホールや廊下には、手づくりの作品を飾り、雑誌などがさり気なく置いてある。また、季節の花や植物を置いて、心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室とホールを自由に行き来できるようにしている。また、ホールとは、離れたところにもソファを置き、そちらでも過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、使い慣れた物やなじみの物、ご家族の写真等を居室に置いて頂けるよう、ご家族に協力を求めている。	各居室には、ベッドとタンスがコンパクトに置かれている。電動ベッドやテレビを持ち込む人もある。家族の協力により、間取りや家具の並べ替え・衣装の入れ替えを行い、その人の希望に合った、個性のある居室となっている。	夜間は、ポータブルトイレを持ち込み使用する人もあるため、トイレの位置や清潔感に配慮するよう期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に大きく利用者名を張ったり、トイレの位置が分かるように張り紙をしたりして工夫している。洗濯機が使える人には、スタッフ見守りし、分からない時には声かけしながら、自力でできるように支援している。		